

作業療法生涯学修制度 前期研修・実地経験 修了確認表（Ver.1）

前期研修・実地経験 修了確認日	西暦 年 月 日
-----------------	---

前期研修・実地経験修了確認者（注1） 記入欄			前期研修・実地経験修了者 記入欄	
（注1） 実地経験修了確認者は1）登録作業療法士であることを要件とする。ただし、2030年3月末までは、下欄に示す2）3）4）の講習会、研修会のいずれかを修了している協会員も実地経験修了確認者と認める。				
氏 名（自筆）と押印	前期研修・実地経験修了確認者が該当する番号を○で囲む	修了証の番号 修了の年月日	氏 名（自筆）と押印	
（印）	1) 登録作業療法士		（印）	
	2) 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会修了者		番 号（ ） 年 月 日（ ）	所属する都道府県士会名（ ）
OT協会 会員番号	3) 理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会受講修了者	番 号（ ） 年 月 日（ ）	OT協会 会員番号	
（ ）番	4) 日本作業療法士協会が主催した中級・上級研修を受講、かつ作業療法士臨床実習指導者研修修了証取得者	番 号（ ） 年 月 日（ ）	（ ）番	
【書類記載に関する注意事項】 この実地経験修了確認表は、正確かつ誠実に記入してください。提出された書類に虚偽の記載があった場合、当該書類に基づく申請や手続きは無効となります。また、虚偽の記載が判明した場合には、既に履修した研修などの受講履歴を消去し、必要に応じて適切な措置を講じることがありますので、十分ご注意ください。 本事項を理解し、遵守することを確認のうえ、書類の記載および提出をお願いいたします。				

作業療法生涯学修制度

前期研修・実地経験 修了確認表 1（Ver.1）

前期研修・実地経験修了者	氏名（ ）	所属する都道府県士会名（ ）
前期研修・実地経験修了確認者	氏名（ ）	所属する都道府県士会名（ ）

（必要な指導のもと）妥当であり、十分である *すべての項目が、「（必要な指導のもと）妥当であり、十分である」と確認されることにより修了確認とする	（必要な指導のもと）相当の疑問が残り、不十分である（⇒ 次回の確認に持ち越し）
--	--

1. 生活行為のニーズを捉える力			
□必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CL の価値ある生活行為を把握することができる	確認方法（例）	◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する 1 症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当する CL にとって価値ある生活行為は何であるかを説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、その内容が作業療法のプロセスにおいて把握するべき情報として妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、その内容が作業療法のプロセスにおいて把握するべき情報として、相当の疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、CL の健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目を選択し、実施することができる	確認方法（例）	◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する 1 症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当する CL の健康状態、生活機能、環境因子、個人因子を把握するために必要な評価項目の選択および実施内容（手段）を説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、必要な評価項目の選択および実施内容（手段）が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、評価項目の選択および実施内容（手段）のいずれか、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
2. 生活行為向上に向けてセラピーする力			
□必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、妥当な課題の抽出、目標の設定ができる	確認方法（例）	◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する 1 症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当する CL の、課題と目標の設定を説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、課題と目標の設定について、その両方が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、課題と目標の設定について、いずれかに、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、基本的な作業療法プロセスに従い、妥当なプログラムを作成し、実践できる	確認方法（例）	◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する 1 症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当する CL の、プログラム作成と実践について説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、プログラム作成と実践について、その両方が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、プログラム作成と実践について、いずれかに、あるいは両方に相当の疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、作業療法士の思考過程を示す実施記録を作成できる	確認方法（例）	◆修了確認を受ける研修中の作業療法士が担当する 1 症例を確認の対象とする ◆研修中の作業療法士は、担当する CL に関する記録物について説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が作成したカルテ等の記録物を閲覧し、その内容が作業療法士の思考過程を示す実施記録として妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が作成したカルテ等の記録物を閲覧し、その内容が作業療法士の思考過程を示す実施記録として相当の疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、基本的に必要なリスク管理を実践できる	確認方法（例）	◆研修中の作業療法士は、従事する施設において基本的に必要なリスク管理について説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が、従事する施設において基本的に必要なリスク管理の実践が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が、従事する施設において基本的に必要なリスク管理の実践に相当の疑問が残り、不十分であると判断する

作業療法生涯学修制度

前期研修・実地経験 修了確認表 2（Ver.1）

前期研修・実地経験修了者	氏名（ ）	所属する都道府県士会名（ ）
前期研修・実地経験修了確認者	氏名（ ）	所属する都道府県士会名（ ）

3. 生活行為を達成するために協働する力			
□協業して作業療法を行うため、必要な指導のもと、基本的な作業療法業務管理を実践できる	確認方法（例）	◆修了確認者は、研修中の作業療法士に対して助言・指導役割を担った（複数の）上位者等から意見を求めるなどの方法で、総合的に判断する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が、以下の基本的業務管理の実践が妥当であり、十分であると判断する ■（従事する施設で必要とされる水準で）他の職種から情報を適切に収集する ■（従事する施設で必要とされる水準で）他の職種に情報を適切に伝える	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が、以下の基本的な作業療法業務管理の実践に相当の疑問が残り、不十分であると判断する ■（従事する施設で必要とされる水準で）他の職種から情報を適切に収集する ■（従事する施設で必要とされる水準で）他の職種に情報を適切に伝える
4. 成果・結果を吟味し、伝える力			
□必要な指導のもと、自己の臨床の質向上に取り組むことができる	確認方法（例）	◆研修中の作業療法士は、自己の臨床の質向上に取り組む事項とその経過について説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は以下の観点から、研修中の作業療法士が自己の臨床の質向上への取り組みが妥当であり、十分であると判断する ■質向上のために取り組む事柄が明確である ■質向上のための取り組みを継続している	☐ 修了確認者は以下の観点から、研修中の作業療法士が自己の臨床の質向上への取り組みに相当の疑問が残り、不十分であると判断する ■質向上のために取り組む事柄が明確で妥当である ■質向上のための取り組みを継続している
□必要な指導のもと、文献や他者からの情報を集め、知識技術の向上に取り組むことができる	確認方法（例）	◆研修中の作業療法士は、文献や他者からの情報を臨床に活用した1例について説明する。この時、参考とした文献等の資料を提示しつつ説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が行う文献などの情報の収集と活用が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が行う文献などの情報の収集と活用に関する疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、自身の臨床を振り返り、吟味し報告することができる	確認方法（例）	◆研修中の作業療法士は、担当する1症例について自身の臨床を振り返り、改善点を説明する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士自身の臨床の振り返り、改善点の説明について、その内容が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士自身の臨床の振り返り、改善点を説明について、その内容が相当の疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、CLや家族に対し、作業療法内容、目的、成果を説明できる	確認方法（例）	◆修了確認者は、研修中の作業療法士が1症例のCLや家族に対して作業療法内容、目的、成果を説明している場面に立会い確認する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士がCLや家族に対して行う、作業療法内容、目的、成果等の説明が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士がCLや家族に対して行う、作業療法内容、目的、成果などの説明に関する疑問が残り、不十分であると判断する
□必要な指導のもと、学生に、自身の作業療法実施内容、目的、成果を説明できる	確認方法（例）	◆修了確認者は、研修中の作業療法士が、「自身が行う作業療法の実施内容、目的、成果などを、学生に伝わるよう説明する」機会を設け、確認する ◆学生がいらない場合、上位者を学生と想定し「自身が行う作業療法の実施内容、目的、成果などを、学生に伝わるよう説明する」機会を設け、確認する	
	記入方法 いずれかに☑	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が学生に対して行う、作業療法の内容、目的、成果などの説明が妥当であり、十分であると判断する	☐ 修了確認者は、研修中の作業療法士が学生に対して行う、作業療法の内容、目的、成果などの説明に関する疑問が残り、不十分であると判断する